

言語文化教育研究学会 月例会特別企画

「社会につながる自己表現」とは何か



—タイの大学 で行った日本語エッセイク ラスにおける 実践を事例 として—

本企画では、わたしがタイの大学で行ったエッセイクラスにおける実践を事例として、「社会につながる自己表現」とは何かを考える。

このエッセイクラスは、タイの教育事情と学習者に揺さぶりをかけること、そして「表現する場」を作り出すこと、具体的には、学習者の「何？ どうして？」と「表現したい(伝えたい)」という気持ちを引き出すことを目的に行われた。議論の素材として、この実践の背景にあるもの、ねらい、手順、学習者達の変化、問題点について話す。

実践を通してわたしにとっての「社会につながる自己表現」とは、「他者への働きかけ」であり「他者理解への鍵」ではないかと思っている。そして4技能すべてを使う、身近なところから考える、注意深く物事を見る、他者の意見を知り、その違いに気づく、意見を共有する、人間関係の緊張を緩和させるためにユーモアを使う、直接性を避けるために比喩を使うなど、多様なものが「社会につながる自己表現」を支えているのではないかと気づいた。「ことば」と「私達の人生」と「私達が暮らしている社会」が繋がっている言語教育とは、言語スキルの上達だけを目的にするのではなく、この自己表現を支えるものに数多く出会える場を用意すること、そして学習者にそれらを体験してもらい、そこから出てくるもの（他者理解であったり、気づきから自ら行動を起こすことであったり）が重要になるのではないかと考えている。やがてそれらが共生や平和へとつながっていくのではないかと感じている。

日時：

2017年7月21日（金）
18:00～20:00

場所：

早稲田大学早稲田キャンパス
22号館 202教室

話題提供者：

江崎正さん

（タイ・カセサート大学
教養学部日本語科講師）

参加費：無料

予約：不要

（当日、直接会場にお越しください）

お問い合わせ：

monthly@alce.jp
（月例会委員会事務局）